

日刊県民福井 掲載記事 平成26年 2月20日

軽度なうちに対応を

急激な高齢化とともに、認知症の高齢者も急増しています。二〇二二年八月の厚生労働省公表データによると、要介護認定者のうち認知症高齢者は三百五十万人と、十年前の百四十九万人から倍増し、二〇年には四百十万人になると推計されています。本県でも昨年四月現在で約二万六千人と、六十五歳以上の高齢者の一割以上となっています。

また、昨年六月の同省研究班の推計結果では、認知症高齢者は高齢者全体の15%、約四百六十二万人と公表されており、今後増加が予想されます。認知症高齢者と家族を地域全体で支えていくことが重要な課題です。

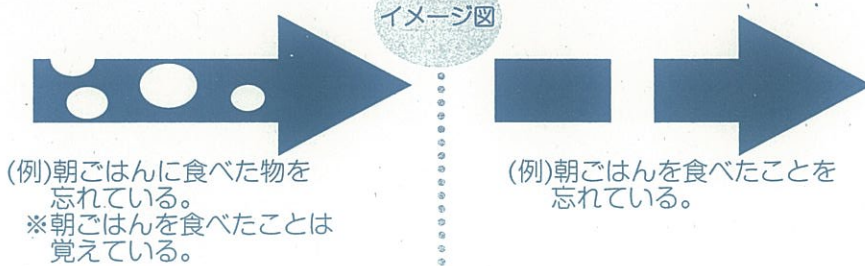
そのためにはまず、認知症について正しく理解することが必要です。認知症は脳の神経細胞が何らかの原因で傷つき、機能が低下することにより、記憶障害や判断力・行動力の低下などさまざまな症状を引き起

いきいきライフ

老化による「もの忘れ」と認知症による「記憶障害」との違い

老化による「もの忘れ」
体験の一部を忘れる。
もの忘れを自覚している。

認知症による「記憶障害」
体験 そのものを忘れる。
もの忘れを自覚していない。



地域で支える認知症

すもので、病状が進行するると日常生にも大きな影響が生じます。年齢を重ねることで生じ、症は記憶全体を失い、例え

る年相応の「もの忘れ」は、過去の体験や記憶の一部を忘れるだけですが、認知症は記憶全体を失い、例え

戸惑わず温かく接する

「朝食を食べたこと」や「現在の自宅や家族構成」を忘れてしまっています。認知症の高齢者本人にとつては、周囲の状況が理解できず、非常に不安な状態になります。家族や周囲の人は、認知症に伴う本人の言葉や態度の変化に戸惑うことなく、症状を十分に理解し、温かく接することが必要です。

そこで、県は認知症特有の症状や接し方について理解を深めるため、市町と協力して「認知症サポート」の養成講座を地域や職場で開催しています。ぜひ皆さんも受講し、認知症の人や家族のよき理解者・応援者になってください。

認知症の対策としては、できるだけ早期に認知機能の低下を発見し、軽度なうちに適切な治療を受けることで、病状の進行を抑制し、重度化の防止をすることが重要です。

県は本年度、独自の認知症検診（もの忘れ検診）のモデル事業を鯖江市、越前市、越前町の三市町と共同で実施しました。認知機能を確認するための独自のチェックリストを要介護認定を受けていない高齢者に配布し、回答を基に、認知機能の低下が疑われる人には医療機関の受診を勧めるものです。

実施結果について、認知症専門医九人で構成する検討部会で、認知症を高い確率で発見できるものと検証され、今後は県内の他市町に幅広く拡大し、認知症の早期発見と症状の改善や重度化の防止に役立てていきたいと考えています。

さらに、認知症の人や家族が気軽に集い交流できる場である「認知症カフェ」も、昨年、認知症専門医療機関「県立すこやかシルバ―病院」を運営する「認知症高齢者医療介護教育センター」や鯖江市などが相次いで開設し、地域における支援体制が広がっています。

これらの施策を含め、今後市町と連携して、認知症の高齢者を地域全体で支える体制の充実を進めていきます。（県長寿福祉課）